

不登校児童生徒への支援の状況について

令和3年6月2日
いじめ・不登校総合対策センター

学齢期の不登校児童生徒への支援については、教員と児童生徒との信頼関係や児童生徒相互のよりよい人間関係づくりを通じた安心・安全な学校づくりをはじめ、児童生徒理解に基づく支援を各学校において進めているが、学校になじめないであるとか、集団の苦手さ等から、個別に学べる環境を求める場合もあり、学校においては、相談室などの別室であったり、市町村教育委員会においては教育支援センターを設置したりして、これらの支援を行っている。

これまでに教職員に対する不登校支援に関する研修やSCの配置、SSWの人材育成、不登校支援の考え方を示したガイドブックなどを作成・周知するとともに、令和元年度7月からICTを活用した自宅学習支援事業を、また令和2年度から中学校における校内サポート教室を設置し、学びの支援の充実を図ってきた。

(令和3年度から、自宅学習支援事業は6名枠を拡大し(合計30人枠)、校内サポート教室は2校を増加(県内5校))

<支援のフレーム>

児童生徒の状況		居場所・学びの場所 学びの方法	実施主体	学びの姿や支援内容等
学校に通っている	④登校や教室での学びに苦しさを感じているがクラスで過ごしている	通常学級・特別支援学級	市町村	・学級担任等が、学級内で座席の工夫や声掛け等による支援を行う
	⑤学校には登校できるが教室に入れない(集団にしんどさがあるなど)	相談室・保健室 サポート教室(県事業) <県内5中学校(令和3年度)>	市町村 県市町村	・児童生徒が、自習や担任から与えられた課題を行う(クールダウンや休息等も含む) ・支援員が、個々の生徒のペースで学校生活が送れるよう、困り感や特徴等に応じた支援を行う ※学習支援、教育相談、保護者相談 ※特別非常勤講師等による体験活動 ※オンラインによる遠隔授業(R3から試行)
学校に通っていない	⑥自宅を出られるが、登校できない(集団にしんどさがあるなど)	教育支援センター <市町村設置:県内10か所>	市町村	・児童生徒が、個々のペースで自習、少人数の友達と関わりながら学ぶ ※出席扱いが認められる
		フリースクール <民間施設:県が補助金を交付している施設は県内4か所>	民間	・施設の指導員等が、学習支援を中心に行う ※出席扱いとなる場合もある(補助金交付対象の施設の場合) ※フリースクール等に通う児童生徒の通所費用に対して支援を実施
	⑦自宅を出ることができない	自宅学習支援事業(県事業) <小・中・高校生 30人枠(令和3年度)>	県	・自宅学習支援員が、オンライン学習教材を使って学習支援や心的サポートを行う(オンラインでのメッセージや家庭訪問等) ※出席扱いとなる場合もある

<その他の支援>

- 学級力・組織力による不登校改善事業(令和3年度新規事業)
 - ・学級づくりなどに焦点を当て、教員と児童生徒との信頼関係や、児童生徒相互のよりよい人間関係を育て、安心感や自己肯定感を高める取組を推進するため、管理職及び教職員を対象とした研修会を実施する。
- 学校生活適応支援員の配置
 - ・不登校の未然防止や早期発見、早期支援の取組を推進するため、不登校をはじめとする生徒指導上の諸課題が心配される公立小学校18校に学校生活適応支援員を配置する。
- スクールカウンセラーの配置
 - ・不登校や問題行動等の対応の充実を図るため全中学校区にスクールカウンセラーを配置する。(令和2年度から、教員とSCの協働による心理教育の授業づくりの取組に着手している。)
- スクールソーシャルワーカーの人材育成
 - ・SSWの新規配置や配置拡充を求める市町村のニーズに対応できるよう、活用に必要な社会福祉の知識や技能等を有する人材を育成する。
 - ・現任SSWの資質向上のための研修会を実施する。
- 「不登校の理解と児童生徒支援のためのガイドブック『あしたも、笑顔で』」の作成・周知
 - ・本ガイドブックの内容に基づく取組が各学校において行われるようにするため、学校訪問型研修や連絡協議会等で活用し、周知を進める。
- 教職員研修用動画資料の配信
 - ・いじめ問題への対応や不登校支援、児童虐待への対応について研修用動画を作成し、校内研修等で活用できるように配信する。

<新しい事業における成果>

- 不登校生徒等への自宅学習支援事業
 - ・自宅学習支援員の関わりによって、多くの利用者が「自分なりに少しがんばれた」と評価した。
 - ・自宅学習支援員との対面が多くの利用者で実現した。
 - ・利用者の約7割が自宅学習の習慣が確立し、家庭内の生活習慣も少しずつ改善した。
- 校内サポート教室
 - ・主に自宅で過ごしていた生徒がサポート教室へ通うようになるなど、通室生徒が増加。
 - ・各支援員の関わり等により通室生の学校における生活が徐々に改善し、中には教室復帰した生徒もある。